

1. 調査目的

卒業後の就職実態を把握しつつ、在学中の教育プログラムで伸ばした能力、就職活動の軌跡等を調査し、今後の学修支援、キャリア支援の充実・改善を図る。特に学生の成長した背景や内定獲得の要因等を深く探るため、インタビュー調査を行う。

2. 対象

令和5年度の学部卒業生（社会人1年目）

3. 調査方法

個別インタビュー（構造化面接） Zoomにて実施（30分）

4. 調査時期

令和7年3月～4月

5. 調査結果

多様な学科・進路先の卒業生に対しメールにて連絡を取ったうち、対応可能と回答があった10名にインタビューを行った。

<対象者>

	卒業した学科	勤務先業種
1	グローバルコミュニケーション学科	情報通信
2	経営学科	金融（証券）
3	会計ガバナンス学科	金融（証券）
4	会計ガバナンス学科	金融（消費者・クレジット）
5	グローバルビジネス学科	輸送
6	グローバルビジネス学科	サービス（マーケティング）
7	法律学科	地方公務員（警察）
8	社会福祉学科	サービス（福祉）
9	教育学科	地方公務員（学校）
10	看護学科	サービス（病院）

サマリー

インタビュー内容から、「成長要因」「進路選択・就職活動」「大学への満足度要因」「大学への要望」について、共通の意見が挙げられた。以下の通りまとめる。

成長要因	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びからの示唆 ・学外での活動経験 ・困難を乗り越え挑戦した経験 	<ul style="list-style-type: none"> ：授業やゼミでの活動がその後の学習意欲向上につながり社会で役立つスキルの基礎となった。また、実習を通して自分がどのようなことに興味を持っているのか気づくことができた。 ほか、物事の見方や価値観にも変化が生まれるなど、自身の成長を実感することができた。 ：アルバイトやインターンシップ、外部のプログラムへの参加は、社会を知る機会となり、多様な経験を積むことで自身の視野が広がった ：コロナ禍の制約された環境下においても、「何もできなかったと後悔したくない」という思いや、漠然とした好奇心から多様な活動に挑戦した。その前向きな行動を通じて、社会で直面した困難を克服する精神的な強さと問題解決能力が養われたと実感している
進路選択・就職活動	<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの多様な情報収集と行動 ・経験を言語化する力 ・学内・学外リソースの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ：3年生の夏頃から本格的に就職活動を開始した学生が多く、説明会やインターンシップに数多く参加することで様々な業界・企業を知り、自身の興味や適性を見極めようとした ：面接では学生時代に力を入れたこと（いわゆる「ガクチカ」）や経験を、相手に伝わるように「言語化」することが重要 ：キャリアセンターやゼミの教員、友人、家族など、多様な人に相談やサポートを受けた 特にキャリアセンターや教員によるES添削や面接練習は非常に役立った
大学への満足度要因	<ul style="list-style-type: none"> ・学び ・環境 ・機会 	<ul style="list-style-type: none"> ：学びたいと思っていたことが学べたこと、入学の目的が叶ったこと ：良い先生や友人とともに学生生活を送ることができたこと ：大学から提供される様々な機会を活用して経験・成長できたこと
大学への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・体験機会の継続的な提供 	<ul style="list-style-type: none"> ：コロナ禍で減少した小学校などでの実地体験や多様な病院での実習は非常に有益で重要だと感じる。これらの機会を今後も継続・強化してほしい